

# 福島第一原子力発電所の状況

2015年4月3日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (4/3 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m <sup>3</sup> /h	16.2	4.1 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.3 m <sup>3</sup> /h	22.3	7.51 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m <sup>3</sup> /h	19.4	0.21 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約1.8 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol%

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (4/3 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	16.0
2号機	循環冷却システム	運転中	27.3
3号機	循環冷却システム	運転中	21.6
4号機	循環冷却システム	運転中	11.8

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘビドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	3/26 10:14 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	4/1 10:03 ~ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (4/3 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 <sup>*2</sup>	ホット試験中 <sup>*2</sup>	ホット試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 5. その他 >

- ・2015/2/5 ~ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。  
4/2 ~ トンネル天井部の充填作業を開始。
- ・2015/2/14 ~ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。  
2015/2/24 ~ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。
- ・2014/6/2 ~ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2015/3/16 ~ 1号機原子炉建屋カバー解体工事に向けて準備工事を開始。

・2015/3/10 6:24 頃 当社社員によるタンクパトロールにおいて、H4・H4北・H4東エリア内周堰外側の外周堰に溜まった雨水の水位が以下の通り低下していることを確認。各タンクエリアの外周堰の止水弁(排水弁)は降雨時に溜まった雨水を排水するため通常「開」運用としているが、当該タンクエリアについては、外周堰に比較的高い放射能濃度の溜まり水が確認されたことから、外周堰内の水を回収するとともに、念のため当該堰の止水弁を閉としていた。

4/3 過去に漏えいがあったH6・B南エリアの外周堰についても3/10より暫定的に弁を閉としていたが、B南エリアを含むBエリア外周堰については、4/1の降雨をうけ4/2に水を採取し分析を実施。分析結果は以下のとおり。

< Bエリア外周堰内雨水 >

全ベータ放射能濃度:21Bq/L(4/2採取)

全ベータ放射能濃度:22Bq/L(3/18採取)

< BC排水路(側溝放射線モニタの変動幅) >

全ベータ放射能濃度:検出限界値未満(検出限界値:27Bq/L)~204Bq/L

Bエリア外周堰については、BC排水路を流れる水と比較して有意な差異が認められないため、明日以降開運用とする。なお、H4エリアおよびH6エリア外周堰については、引き続き汚染防止に向けた対策を続けていく。

・2015/4/2 13:00 頃 福島第一原子力発電所第二保管施設において、協力企業作業員が、ボックスカルバート\*内に収納されている高性能容器(HIC)の確認作業を実施していたところ、HICの上部に溜まり水があることを確認。

\*ボックスカルバート

鉄筋コンクリート製の箱型保管施設

ボックスカルバート内には、HIC2基を収納

その後、HICに触れた際、HIC蓋外周部のベント孔より、水が滴下したことを確認。なお、ボックスカルバート外への漏えいはなく、当該作業にあたった15名の作業員への汚染はない。現場確認の結果、2箇所のボックスカルバート(AJ5、AJ8)において、水溜まりがあることを確認。

・AJ5ボックスカルバート:床面(約15L)およびHIC蓋外周部(約10L)(1基)

・AJ8ボックスカルバート:HIC蓋外周部(約1L)のみ(1基)

また、AJ5およびAJ8ボックスカルバート内のHIC蓋外周部に溜まった水の分析結果は以下のとおり。

【AJ5】

・セシウム134  $1.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$

・セシウム137  $6.8 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$

・全ベータ  $3.0 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$

【AJ8】

・セシウム134  $1.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$

・セシウム137  $7.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$

・全ベータ  $3.9 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$

【参考:HIC内水の放射能濃度】

HIC内の水については実際に分析を行っていないが、 $10^5 \text{Bq/cm}^3$ の原水(主にストロンチウム)を100倍程度濃縮した水( $10^7 \text{Bq/cm}^3$ )を収納する設計となっている。

なお、これまでボックスカルバート内部については定期的に点検をしており、3/30の点検において、協力企業はクレーンカメラにてAJ5ボックスカルバート内部床面に水溜まりがあることを確認し、3/31に当社は報告を受けた。

3/31に当該部のスミヤ採取・測定をした際に、目視にてHIC蓋外周部に水溜まりがあることを確認。当社はHIC上部からの漏えいは考えづらいこと、また、スミヤ測定結果においてHIC蓋外周部は100kcpm超であったものの、床面は34kcpmであったことから結露水と判断した。ただし、線量があったことから、念のため、ボックスカルバート内の確認作業を翌日以降も継続とした。

4/1は降雨の影響により、ボックスカルバート内に雨水が流入するため、作業を中止。

4/2にHIC蓋外周部の溜まり水を回収した際、HIC蓋のベント孔から水が出てきたことを確認。また、他のボックスカルバート内も確認できる範囲で点検を実施したところ、AJ8ボックスカルバート内のHIC蓋外周部に少量の水溜まりがあることを確認。

今後、原因について調査するとともに、他のボックスカルバート内の状況確認も可能な範囲で実施していく。

**【地下水バイパス揚水井の状況】**

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

**【H4, H6 エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

< H4 エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6 エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】**

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上